

「専守防衛」を逸脱、攻撃対象になるという不安～自衛隊大分分屯地大型弾薬庫新設計画問題～

大分市敷戸にある陸上自衛隊大分分屯地に大型弾薬庫が新設されるという計画について、その問題点を日出生台対策会議議長である守永信幸副代表と、分屯地近くに住む甲斐高之常任幹事にお聞きしました。
【2023.8.28 聞き手・広報局】

まず、この計画の問題点をお話してください

(守永) 新設されるという弾薬庫に保管される「スタンド・オブ・ミサイル」は、攻撃目標の射程圏外から攻撃できるミサイルで、「反撃能力」を行使するためのものです。

これは、これまで日本の防衛戦略の基本姿勢をなし崩し、日本国憲法下で遵守してきた「専守防衛」を逸脱するものだと考えます。

なぜ、大分にできるのですか？

(守永) 今回、大分県と青森県むつ市の海上自衛隊大湊地方総監部の2ヶ所に先行して新設するとしています。

さらに、これから、全国の自衛隊施設に大型弾薬庫を新設するため調査するという方針も示しています。



守永信幸副代表

大分県は、やはり日出生台演習場があるからでしょう。

また、九州の真ん中に位置するこの弾薬庫から、各自衛隊施設に供給すると考えているのだと思います。

地域の方々はどのように感じられているのでしょうか？

(甲斐) そもそもこの場所は、近隣に駕野・敷戸・寒田・東植田・判田の5つの小学校や中学校、大分大学などがある文教地域です。また、この地域だけで2万世帯4万人が生活する住宅密集地のど真ん中です。

これまでの軍事的紛争を見ても、弾薬庫が最初の攻撃対象となるのは軍事的常識とされています。つまりは、大分分屯地弾薬庫が攻撃対象とされるのは必至であり、隣接する方々の不安は計り知れないと思います。

弾薬庫が爆発した場合、どのような被害が出るのでしょうか？

(甲斐) どんなミサイルが保管

されるのかは「機密扱い」とされ、情報公開されません。

そのため、保管されている火薬の総量も分からない訳です。

ですから、攻撃された場合だけでなく、何か事故があって爆発した場合、その被害範囲の予想もできません。近隣の方々は、危険なものと隣り合わせな生活を強いられる状況になります。

これからの取り組みについてお聞かせください

(守永) 日出生台対策会議を中心に、抗議集会や広報活動を展開していこうと考えています。

また、党所属議員を中心に、当局に情報公開や住民説明会を求めていく予定です。

(甲斐) 近くに住む私は、地域の方々のお聞きし、諦めずに共に反対活動を行っていきつくりたいです。



甲斐高之常任幹事

各地の街宣活動を紹介《その1 大分市支部》



毎週月曜日早朝、大分駅前で大分市支部では、吉田代表や所属議員の方々が、毎週月曜日の早朝に大分駅前

で街宣活動を実施
「吉田県連代表をはじめ県議のみなさんと平和やマイナンバーカード、ジェンダー平等などを訴えています。」

足を止め声掛けくださる方、飲み物を差し入れてくださる方、毎回欠かさず応援に来て下さる方などたくさんのご支援に力を頂いています。」



【報告者 宇都宮陽子・大分市議】

みなさん、よろしくお願ひします

～松島孝敬・新事務局長を紹介～

本年7月3日より立憲民主党大分県連事務局長に就きました松島孝敬(たかのり)です。

1965(S40)年生まれ福岡県北九州市出身、北九州市内の高校を卒業後、小売業販売店7年半(入社半年で大分県別府市内店補に転勤)、半導体製造業24年(日出町)、社会福祉法人2年(宇佐市)、参議院議員秘書7年(大分市)と就いてきました。

いち早く業務内容を覚えて、円滑な県連運営に貢献できるように精一杯努力したいと思います。

党員の皆様をはじめ、関係機関の皆様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



松島孝敬事務局長